令和 4 年度 日本大学幼稚園 自己評価票

〔本園の目指す幼稚園像〕

日本大学幼稚園は創設 95 年を数える。日本大学の自主創造の気風を尊び、幼稚園においては、自主的・創造 的気概に満ちた感性豊かな人間の基礎を育む。保育者との信頼関係を基盤に一人一人の自ら育つ力を引き出し、 調和のとれた発達と成長への道筋をつくり、バランスのとれた幼児教育を目指す。

[本園の特長及び課題]

「情操豊かな子ども」・「深く遊びを楽しめる子ども」・「人や環境とつながる力のある子ども」・「自分なりに考えて行動できる子ども」の4つの教育目標を柱に、保育者は子どもたちのありのままの姿を受け止め、一人一人の子どもと丁寧に向き合い、心地よい信頼関係の下で安心できる生活を築き、自ら育つ力を蓄え、自尊感情の高い生きる素地をつくる。

このような本園の教育方針に基づき、全教職員が共通理解をした上で、互いを尊重し合い、協力して同じ方向を向いて実践に取り組む。また、指導計画や教育カリキュラムを基に、年少から年長まで一貫した教育環境を整える。

園児や保護者、教職員の健康管理と教育環境・子育て支援の在り方を追求しながら、時代のニーズに合った幼稚園の確立を目指す。

令和4年度の取組結果

[概況]

- 1 園児の発達と育ちの現状を捉え、個々の育ちの道筋を探りながら必要な環境を整えるとともに、全教員が共通 認識できる年間カリキュラムを基に保育を実践した。発達に課題のある園児については、定期的に行う発達の専 門家を招いた研修が効果を発揮し、担任・園長・発達の専門家との連携を基に、全教職員でのサポート体制をつ くることでよりよい育ちを促すことができた。また、必要に応じて担任・園長・保護者との面談を行い園と家庭 とが連携したことで、子どもの課題や対応策が明確になり、保育に生かすことができて子どもの理解にもつなが った。
- 2 昨年度の経験を踏まえ、日常の遊びや生活を取り巻く環境、園行事等における新型コロナウイルス感染症感染防止策を見直し、幼児期にふさわしい教育環境を可能な限り取り戻し、それを保障するとともに、園児家族が教育活動に触れる機会を増やすことを目標に実行した。その結果、異年齢交流による育ちや保護者の本園の教育活動への理解にもつながった。
- 3 初めて実施した他園との合同園内研修,実践記録のレポートによる教員間での学び等,日頃の実践の検証・改善につながる園内研修を実施することができた。特に描画表現については深く考える機会となり、今後の教育活動に有効な学びの場となった。今年度初めて、動画配信による研修風景公開を試みたことで、共通の学びの場をつくる手段として有効であることが立証できた。
- 4 近隣住民への配慮として,運動会の声や音楽等が過剰な騒音にならないよう気を配り,落ち葉の多い時期には 隣接する住民の掃除の負担が軽減できるよう清掃するなど改善策を考え実行した。立地条件や建築上の問題によって生じる近隣住民からの御意見や要望に関しては,大学本部管財部と連携して継続して対応策を検討している。
- 5 今年度より終礼を始めたことで、日々の伝達事項が全教職員で確実に情報共有できるようになった。

教育課程 · 指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成 状況
運動やリズム遊びな	子どもの脳の活性化と体の発達を促す効果がある運動やリズム遊びは、計画的か	
どの継続的な実践と 教育的効果の追及	つ継続的に実践することが有効であるため、講師と担任とが連携して実行した。	В
	専門講師を招いてのリズム遊びは、感染リスクを見極めながら3学年の縦割りで	

	行う機会をつくったことで、互いの刺激となり有効性があることを再確認でき	
	た。また,リズム遊びの教員研修では動きを各々が習得し自信を持って取り組む	
	ことができ、子どもの意欲を引き出す実践力につながった。	
園行事に向けた活動	実施案を立て,運動会・製作展・劇の会などに向けての活動の目的や狙いなどを	
についての共通理解 と教育的効果の検証	明確にしたことで全教職員が共通認識の下,同じ方向性で取り組むことができ	D
	た。振り返りの場をつくり、その教育的効果を検証するとともに、今後の課題に	В
	ついても触れることはできたが,更に追及していきたい。	
教育目標を踏まえた	令和4年度は新たに専任教員が加わったので、特に若手教員の育成を意識し、教	
園内研修の実施及び 子どもの育ちと環境 の関係性の検証	育目標を踏まえた本園の目指す保育実践ができるよう定期的な園内研修を重ね	
	た。子どもの育ちの現状から,環境と子どもの育ちの関連性を追求し,検証する	В
	場を大切にした。様々な課題を持った子どもの育ちにおいて、子どもを取り巻く	
	大人を含めた環境が、子どもの成長に大きく影響することを学んだ。	

園生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成 状況
新型コロナウイルス	園児及び家族の健康状態を把握できるように情報提供を保護者に投げ掛け、感染	
感染症感染拡大防止 策の遂行	者が発生した際に敏速に周知・対応したことで、保護者の感染拡大防止への意識	
	が高まり、園への理解も深まった。日常の手洗い・消毒・黙食などの感染予防の	Α
	習慣は身についたが、園児のハンカチの所持を徹底することは難しく、継続的な	
	投げ掛けが必要である。	
保護者の交通安全の	一 4万に妖任言宗有の励力で付く休暖有円りの久通女王相等で天心し,又通女王の	
意識向上を図る	知識を高め意識向上を図った。自転車通園の際の子どものヘルメット・シートベ	Δ.
	ルト着用徹底の推進・徒歩通園の際の安全教育など日頃より周知・確認を繰り返	A
	すことで,交通事故防止と命を守るための習慣が身についてきた。	
整理整頓や身の回り	日々の整理整頓に加え、安全で遊びやすい環境設定は、子どもが遊ぶ姿から改善	
の所持品の管理と安全 全な環境の検証	点はないか検証し、必要に応じて見直しをした。所持品・ロッカーや着替え袋な	
	ど、身の回りの物を整理整頓して管理する習慣が身につくよう定期的に促してい	В
	るが、個人差があるため、今後も意識向上を目指す。特にハンカチ所持が習慣づ	
	かない子どもがいるため、継続的に家庭に投げ掛ける必要がある。	

情報提供・管理

取組目標	取組結果・進捗状況	達成 状況
コロナ禍における幼	行政の指針の改定に基づき本園における新型コロナウイルス感染防止策を策定	
稚園運営・教育の在 り方や感染予防対策	し実行するとともに、園運営・行事・教育の在り方について都度検討・見直しし、	
などの明確化と保護	書面や配信メールで分かりやすく情報発信して保護者の理解と協力を得られる	
者への周知	ように努めた。意識的にコロナ発生前の行事や教育活動を徐々に取り戻し、特に	A
	運動会や製作展などでは園行事の参観人数の枠を広げたことは、本園の教育活動	
	に対する保護者の理解を深めることにつながった。	
ホームページや Zoom	ホームページを活用して、園生活の画像や、在園児や地域の未就園児保護者への	
配信の充実	子育て支援の情報を頻繁に掲載し、情報発信の手段として生かせるように努め	
	た。また、今年度は、園での生活、行事の様子、教育目標、特色などを織り込ん	В
	だパンフレットを作成し、本園について詳しく周知する手段を加え、本園に対す	
	る期待や関心が膨らむように工夫した。Zoomや YouTube (限定公開) を利用し,	

	園行事を保護者に公開して保護者の期待や要望に応えることにより園への信頼	
	を育んだり、教員の園内研修等を配信し教員同士の学びの場を広げたりするな	
	ど,ICT化を積極的に導入し有効活用できた。	
教職員間の情報共有	園での情報や伝達事項を全教職員に漏れの無いように伝えられるよう、終礼を取	
	り入れたことにより情報を共有できたが、実施方法などは検討の余地がある。	В

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況		
大学本部などとの連	本部と連携し、建物の安全管理の対応、近隣配慮のための取組、人事に関する相	a	
携	談など、必要に応じて本部と連携して対応した。その他の園の運営に関する事案	В	
	に対しても,本部との協力体制を構築し,連携して解決するように努めたことで,	Б	
	より安心して園を管理運営することができた。		
園の建物・設備や環	必要な保守点検及びメンテナンスを行い、安全安心な建物・遊具を維持できるよ		
境の安全管理	う管理し、不備が見つかった際は速やかに対応した。また、定期的に細心の注意	Δ.	
	を払って建物等を点検し、雪予報や悪天候に備えて安全な環境を整えたことで、	Α	
	自然災害による被害を予防することにつながった。		
教職員間における園	職員会議や園内研修で、本園の教育方針や価値観を専任教職員で正しく理解して		
の教育方針及び価値観の共有・実現	共有し, その方針に基づく教育を全教員が協力して実現できるように, 計画的に	В	
	取り組んだ。園内研修での実践の振り返り・検証・見直しの積み重ねは、保育力	D	
	向上につながっている。		

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組結果・進捗状況	達成 状況	
後援会との連携によ	日頃から後援会会長を中心に幹事との信頼関係を築き、園行事の見直しや問題が		
る理想的な園運営の 実現	起きた際には保護者の代表として相談し、互いに寄り添うことで園への理解の下	Α	
	での協力体制ができ、園運営を円滑に進めることができた。		
コロナ禍での子育て	在園児や地域の未就園児の保護者が必要とする支援を探り、コロナ禍でも可能な		
支援の在り方の模索	限りの子育て支援を考え実行した。コミュニケーションの場として提供する未就		
	園児親子の子育て支援は、室内・屋外を利用してより充実した内容で実施した。	В	
	多方面での子育て支援は、本園出願希望への道にもつながるので、引き続き模索・		
	実行する。		
預かり保育の充実	就労の保護者だけでなく、子育てに専念する専業主婦の保護者の支援も充実でき		
	るよう預かり保育担当者の人員を増やし、コロナ禍でもより充実できる環境を整		
	えた。また、長期休業期間特別預かり保育の費用を下げるなどして継続的な利用	В	
	者への負担を軽減できるような方策を考え実行した。今後は定員数を増やし、多		
	くの保護者を支援できる環境を構築する。		

地域との連携

取組目標	取組結果・進捗状況	達成 状況
コロナ禍での幼小連 携の取組の確立	近隣小学校発信の幼保小連携の取組に参加したことで、その意図や教育的効果を 改めて知る機会となった。小学校の児童や教職員に温かく迎えられ、年長児の小 学校への期待が膨らみとてもよい交流の場でもあった。今後も積極的に参加した い取組である。	В

近隣住民への日頃か らの配慮と信頼関係	近隣住民に対して、日頃から心配りの積み重ねを心掛け、信頼関係を育めるよう	
を育む努力	に努めた。近隣の方との会話を大切にし、運動会前の挨拶回りや落ち葉の時期の	
	外掃除等を積極的に実行したことで、信頼関係を育んできたが、隣接する住民に	В
	対する建物上の課題は残っているため、引き続きできる限り応えられるよう計画	
	的に実行する.	

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

令和5年度の取組目標及び方策

教育課程・指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
PDCA(計画・実	日常の遊びや活動,行事への取組等教育活動において,	PDCAの取り組み方と内容
践・検証・改善)の習慣化による教育活動	PDCA(計画・実行・検証・改善)のサイクルを習	・学年間での打合せ
等の活性化	慣化し、保育力向上と教育活動の活性化を図る。	週ごと
		・全学年での打合せ
		月ごと
		・定期的な園内研修 月2回
		(室内と戸外の遊びの質・環境
		設定・異年齢交流・課題のある
		子どもとの向き合い方等)
運動やリズム遊びな	コロナ禍での子どもの運動能力低下の改善策として、	・運動(講師): 週1回
どの継続的な実践と 教育的効果の追及	屋外遊びの重要性を検証するとともに、専門講師によ	・リズム遊び (講師): 年4回
	る運動・リズム遊びを日常の保育に継続的に取り入れ、	
	教育的効果を高める。	
全教員の保育力向上	教員に積極的な園内外の研修会参加を促し, 課題のあ	・園内研修
と若手教員の育成	る子どもの対応力を身につけ、独自の工夫を絡ませ保	発達の専門家による研修
	育力向上を図る。また、各クラスの状況等を情報共有	年間12回
	し、クラスによる格差が出ないよう配慮することを教	教員間での研修 月2回
	員間の共通課題として実践する。	• 園外研修 随時

園生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
行政からの通知をベ ースにした感染症対 応の確立	感染症対策を踏まえた園児や教職員のマスク着用のルール改定,園行事の在り方等,行政の指示をベースに 吟味し,的確な判断の下遂行する。	・感染症対策改定 4月 ・園行事の見直し 随時 運動会・製作展・劇の会・卒園
		式
登降園時の保護者の 事故防止意識向上	登降園時の門の飛び出し注意,入園証の提示など通園の際の約束事,子どものヘルメット着用など交通安全ルール等,必要に合わせて定期的に投げ掛け,親子の危機管理意識向上を図る。保育の中でもそれらを話題にして,園児一人一人の事故防止の意識を高める。	・荻窪警察署員による交通安全 指導 4月 ・保護者への投げ掛け 随時
手洗い・消毒,身の回 りの整理整頓・所持 品や爪の管理等の生 活習慣化	ロッカーや保育室の遊具等の整理整頓,所持品やハンカチ等の自己管理,爪の衛生管理等の意識が個々に浸透するよう,身の回りの点検や確認を習慣づける。	・所持品整理整頓・爪の検査 週1回

情報提供・管理

取組目標	取組方策	取組スケジュール
交通ルールや公園など公の場でのマナーの遵守	登降園の際の交通事故防止を目指し、荻窪警察署の協力を得て保護者向けの交通安全指導を実施する。自転車のスピード運転や路地の飛び出しは事故誘発だけでなく近隣住民への迷惑にもつながること、同様に公園等公の場での親子のマナーが近隣住民の本園理解に影	・荻窪警察署員による交通安全 指導 4月・保護者への発信 随時
	響することを発信し、改善へと導く。	
教員間での定期的な打合せ・研修の積み	年間カリキュラムを基に定期的に学年間及び学年リー	・学年間の打合せ 週1回
重ねによる、保育力・	ダーとの打合せをした上で、計画・実行・検証・改善	・全学年での研修 月2回
教育の質の向上	を繰り返し、全教員が連携して一貫した教育活動が成	
	されているか再確認する。また、保育の課題などを取	
	り上げて、教員間での研修の場を設け、問題意識の共	
	有と改善方法を共に考え、保育力と教育の質向上を目	
	指す。	
HP・YouTube ほか	保護者への情報発信・連絡手段として新たにICTの	・導入時期 6月
新たなICTシステ ム導入による情報発	管理システムを導入し、簡易的かつ迅速な情報発信手	・HP更新 随時
信ツールの確立	段として有効活用する。日々の教育活動の発信手段や	
	教職員の業務効率化にも役立てる。	

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
危機管理マニュアル の確認と見直し	行政からの指導に基づき、その時々に修正し、危機管	・内容確認 年度当初
	理対応について全教職員に周知し, 共通認識の下, い	・内容改訂 必要に応じて随時
	ざという時に安全かつ迅速に対応できるよう備える。	
園運営が円滑に営ま	教職員一人一人が力を発揮しつつ、教職員間の日常の	随時
れる組織を構築	コミュニケーションを生かして、様々な課題や問題を	
	解決できる組織的運営を確立する。	
ICTの活用による	ICT化を進め、教職員の仕事の効率化を図る。IC	・機器・システムの導入 4月
効率化 	Tの活用により、保護者への連絡ツールを1本にする	・保護者向け稼働時期 6月
	ことで利便性の向上を図るともに、教職員の仕事を軽	
	減し、超過勤務減につなげる。	

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組方策	取組スケジュール
充実した預かり保育	就労の保護者のみならず、必要とする保護者に対して	4月より実施
の構築	十分な子育て支援ができる環境を整える。	
課外教室の増設	これまでの課外教室スポーツクラブに加え, 令和5年	4月より導入
	度より新たに年長児対象のキッズダンスを導入する。	
	今後,年中や小学生など年齢層の幅を広げていくこと	
	を想定しつつ、現状を把握して見極めていく。	
在園児・未就園児の 保護者のニーズに応	現代の保護者の悩みや望みを踏まえ、未就園児・在園	・運動講師による講演会 7月

えられる,多様性の	児の保護者それぞれのニーズに応えられる子育て支援	
ある子育て支援の構 築	を考え、実行する。また、子育ての一助として双方を	
	対象とした子育て講演会を実施し、園と保護者の連携	
	活動を推進する。	

地域との連携

取組目標	取組方策	取組スケジュール
幼保小連携活動への 積極的参加による教 育的効果の実証	近隣小学校連携の取組は、小学校教育の現状を知る場	・各学期1回の予定
	となり、園児及び児童をはじめ小学校教員や保育士と	
	の貴重な交流・体験の場となるため、積極的に参加し	
	て教育的効果を見つけ出し検証する。	
積極的な地域の会合	地域の連絡会や会合等に積極的に参加し、地域の取組	天沼小学校震災救援所連絡会
参加による信頼関係 の構築	を知るとともに,地域の方々との交流を通して信頼関	年6回
	係を育み、本園への理解を深め、興味・関心を抱く機	· 荻窪交通安全協会総会等
	会となるよう心掛ける。	
地域の子育て支援関	未就園児保護者への情報収集に役立つよう、地域の子	・親子での保育体験
連施設等との連携に よる本園情報発信ツ ールの確立	育て関連施設に本園の子育て支援や園児募集等のポス	5・6・10・11・1月
	ター等掲載・配布の協力を依頼し、ホームページ以外	・次年度入園予定者見学会
	での情報発信ツールを広げる。	9月
		その他見学希望者随時対応

中長期的目標及び方策

教育課程・指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
豊かな創造力・知的好奇心を育む	スポーツや芸術などを通じて本学関係者や地域の方と	・随時
好可心を同じ	の交流の場をつくり、園児の興味や関心を深める。	

情報提供・管理

取組目標	取組方策	取組スケジュール
課外教室・預かり保 育の増設	情操教育の一環として希望者を対象とした課外教室の 充実を図るとともに、空き部屋を利用して長期休業中	・課外教室キッズダンス毎週火曜日
	の預かり保育や満3歳児保育などの実施を検討し、子育て支援の充実と収入増につなげる。	夏休み期間スポーツクラブ 短期集中講座 ・長期休業中預かり保育 春・夏・冬季休業中

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
危機管理意識の向上	教職員全員が危機管理マニュアルで園の安全について	・危機管理マニュアルの改訂
を図る	確かめ合い、必要に応じて見直していく。	4月